



白聖

はくあ 第12号 令和8年8月28日発行



《夏季休業中の課外活動を記録しよう》

およそ一ヶ月に渡る夏季休業中もあっという間に終わってしまいました。この夏季休業中に、大学オープンキャンパスや各種体験セミナー、学習会等の課外活動に積極的に参加した人も多いと思います。普段の学校生活では経験することができない貴重な「学び」が得られたのではないのでしょうか。自身の経験を豊富にしたり、見聞を広めたりした活動内容や、参加して学んだことや身に付けたことは、できるだけ記憶が鮮明な早い時期に記録を残すようにしてください。面倒だからと後回しにすると、時間の経過とともに肝心なことを忘れてしまったり、曖昧な形で残してしまったりする危険性もあります。資料と一緒に進路ノートやファイルなどを「ポートフォリオ（学習履歴をまとめた記録）」としてしっかりとまとめて確実に保存しておきましょう。

昨今の大学入試では、高校時代の活動履歴を出願書類として求める場合があり、特に総合型選抜・学校推薦型選抜ではその傾向は強くなっています。自分がいつ何をして、何を感じ、何を学んだのかを言葉や文章にして大学側に伝えることが求められています。そのための準備として課外活動の記録が大切になるのです。また、参加した課外活動は学校側が作成する調査書等の書類にも確実に掲載する必要があります。HR担任の先生からどのような課外活動に参加したのか尋ねられた場合、すぐ提示・説明することができるように、資料を一元管理しておきましょう。皆さんの記録が不十分だと、せっかくの貴重な体験も書類に記載されずに無かったことにされてしまうかもしれません。（それは絶対に避けなければいけない最悪なケースですが・・・）。

長期休業中だけに限りませんが、さまざま課外活動の経験は皆さんの大切な「財産」です。その記録はくれぐれも散逸しないように大切に管理してください。



《大学について学ぼう②》

「大学進学にはお金がかかる」とは聞くけれど、実際どれくらい必要なの？」と気になる人も多いのではないのでしょうか。大学の学費は、「国公立か私立か」「文系か理系か」など、進路によって大きく異なります。進路が決まってから慌てないように、大学進学に必要な学費の目安をあらかじめ保護者と一緒に押さえておきましょう。

《大学の入学料・授業料・施設設備費は？》

国立大学の入学料と授業料は、文部科学省令で定められた標準額を踏まえたうえで、各大学一定の範囲内でそれぞれ定めることになっています。現状では標準額と同じ金額（282,000円）を設定する大学が多く、大学・学部間での差はあまり見られません。しかし、令和元年から教育研究コストの上昇に伴う授業料の値上げをする国立大学も出てきており、この動きは拡大していくと予想されます。

公立大学の学費（平均値）は、住んでいる場所が「地域内」か「地域外」かによって入学料に差がある大学が多く、地域内入学者になると国立大学よりも初年度の学費がかからない場合もあります。国公立大学は、基本的に施設設備費がかからない点もポイントです。

国公立大学と比べて、私立大学はどの学部においても、初年度納付平均値が高くなっています。また、私立大学は学部系統によっても大きな金額差があり、特に顕著なのが医歯系学部です。私立大学医歯系学部と私立大学理系学部との差は約330万円で約3倍、国立大との差では約400万円と約6倍となっています。

大学の初年度納付金の目安

単位：(円)

	入学料	授業料 (年額)	施設設備費 (年額)	合計
国立大学	282,000	535,800	0	817,800
公立大学	388,206	536,191	0	924,397
私立大学 文系学部	223,867	827,135	143,838	1,194,841
私立大学 理系学部	234,756	1,162,738	132,956	1,530,451
私立大学 医歯系	1,077,425	2,863,713	880,566	4,821,704

(裏面に続く)

次に入学料や授業料、施設整備費を合計した「入学から卒業までにかかる学費」を比べてみましょう。

初年度にかかる学費より、大学・学部ごとの差はさらに大きくなります。まず、国立大学と私立大学を比較すると、文系学部で約 168 万円、理系学部で約 299 万円、医歯系だと 2,000 万円以上の差が見られ、私立大学の学費が高くなっていることがわかります。私立大学の文系と理系を比較した場合、その差は約 130 万円で、理系学部の学生は文系学部に比べて大学院に進学するケースが多いため、学費面の負担はより大きくなる可能性があります。

国公立大学は、施設設備費がなく授業料も私立大学より低く設定されていることが多いため、4 年間または 6 年間大学に通うとなると私立大学との学費総額に差がでます。

大学入学～卒業までの学費総額の目安



大学入学～卒業でかかる学費総額の目安 単位：(円)

	入学料	授業料	施設設備費	合計
国立大学	282,000	2,143,200	0	2,425,200
国立大学医歯系	282,000	3,214,800	0	3,496,800
公立大学	388,206	2,144,764	0	2,532,970
私立大学文系学部	223,867	3,308,540	575,352	4,107,759
私立大学理系学部	234,756	4,650,952	531,824	5,417,532
私立大学医歯系	1,077,425	17,182,278	5,283,396	23,543,099

【大学の受験料はどれくらい必要？】

受験料を比べてみると、国立大学と公立大学ではさほど変わりませんが、私立大学は 30,000～35,000 円と 2 倍近く高くなっています。また受験料のほかに、願書の取り寄せ（最近は WEB 出願の大学が多い）や発送にかかる費用、

受験会場までの交通費・宿泊費などの費用も必要です。受験する大学が増えると、当然ですが受験費用もその分増えることは覚えておきましょう。

受験料（入学検定料）

単位：(円)

大学	受験料
大学入学共通テスト (3教科以上受験で)	18,000
国立大学	17,000
公立大学	17,186
私立大学(医歯系除く)	30,000～35,000

【入学後の生活費はどれくらい必要？】

大学入学後の生活費は、下宿か自宅通学かで費用が大きく変わります。下宿して大学に通うとなると、平均して年間 100 万円近い仕送りが必要です。一方、自宅通学によってかかる交通費は平均月々 9,380 円（年間約 112,560 円）となっており、下宿と比べると 9 分の 1 ほどで済むケースが多いようです。下宿には大きな費用がかかるため、希望する大学によって準備する金額も変わります。大都市圏などの地域によっては負担が多くなるので、早いうちに下宿する可能性があるのかを保護者と相談しておくことで安心できるのではないのでしょうか。

下宿費用の目安

下宿準備のための費用	約38.7万円
仕送り額（年間）	約95.8万円

このように、「国公立大学か私立大学か」「理系学部か文系学部か」「下宿通学か自宅通学か」によって、費用は大きく異なります。大事なことは、自分の希望や考えをまとめたうえで、具体的な条件について保護者と話し合う機会を設けることです。進学費用について受験期に入ってから不安を抱かないように、予め複数の志望校のホームページや大学案内で保護者と一緒に確認しておきましょう。大学の学費の目安を知ることは、現実的に将来について真剣に考えるきっかけにもなりますので、今後の勉強にも力が入るのではないのでしょうか。

【ベネッセ教育情報 より引用・抜粋】